

経営会議の内容

件 名	大和市こもりびと支援条例の制定について
所 管 部	健康福祉部
日時・場所	令和4年5月25日（水） 13：30 ～ 14：20 研修室
出 席 者	市長、副市長、教育長、病院長、市長室長、政策部長、総務部長、市民経済部長、環境施設農政部長、健康福祉部長、こども部長、文化スポーツ部長、街づくり施設部長、病院事務局長、消防長、健康福祉総務課長
提 出 理 由	大和市こもりびと支援条例を制定するにあたり、その内容について了承を得るため
会議経過	【主な意見等】 ・ ひきこもりに関する報道等をみると、本人やその家族が、周囲に相談してもなかなか理解してもらえず、孤立してしまう場合が多いと言われている。そうしたなか、市として条例を整備し、支援を行っていくことには大きな意味があると思う。 ・ 健康福祉部では、「大和市おひとりさま支援条例」の制定についても準備を進めていると思うが、今回の条例の関係性等についてどのように考えているか。 （所管部） 今回の条例で、こもりびとの対象者の年齢は明記していない。ただ、こもりびとは、例えば、就労すべき年齢層であるものの、自宅に閉じこもらざるをえないような方々が対象であると考えている。内閣府の調査でも、14歳から64歳を対象にしていることもあり、本市としても、こもりびと支援は64歳までの範囲をメインに考えている。一方、社会保障制度の対象となる65歳以上の方は、おひとりさま支援の範囲になると考えている。 ・ 令和4年3月までに、221人から相談があったとのことである。相談者からは、市やNPO、民間事業者に対して、どのようなことに取り組んでほしいという意見があったのか教えてほしい。 （所管部） 今後の主な取り組みとして掲げた相談支援体制の充実等は、当事者やその家族の集いに参加いただいた方に行ったアンケート等を踏まえ、検討したものである。いただいた意見のなかには、同じ境遇や気持ちを抱えた方と交流ができる場所があることは重要であるということや、世間では悪いイメージを持たれがちなかひきこもりについて、市が理解促進に取り組んでくれるのはありがたいという意見があった。また、当事者と家族だけでは煮詰まってしまっている状況もあり、第3者から新たな視点が得られるという点も感じていただいているようである。 ・ こもりびとは今後増加する可能性もある。ぜひ、しっかりと取り組んでもらいたい。 （所管部） 市民に身近な市役所がこもりびと支援に取り組むことで、当事者やその家族の方が足を運びやすくなり、市が担うことの意義を日々、現場において感じている。また、ひきこもりと無縁と思われるような人でも、コロナ禍で仕事がなくなったり、学校がお休みになったりするなかで、気づくと家にひきこもっていたという事例も少なくないような状況であり、現場では、他人ごとではないということを強く感じてい

	る。このことを、市民にも理解していただきながら、こもりびと支援にしっかりと取り組んでいきたいと考えている。 • これまで、不登校やひきこもりは、様々な背景があることから、個人の問題、家族の問題という見方が強かったと思う。こうしたなかでも、大和市では率先して相談窓口を設け、大きな成果もでてきていると思う。ひきこもりを個人や家族の問題とみてしまうと前に進めないが、今回の条例で示されているように、社会の中に包摂していくという姿勢を打ち出すことに大きな意味があると思う。課題の解決には長い時間寄り添っていくことが必要になると思うが、ぜひ、粘り強く取り組んでほしい。また、今後は、当事者同士が一歩進んで交流できるような取り組みも設けられるとよいと思う。 (所管部) 今後、専門家の意見も踏まえながら、市としてどのような施策の充実を図っていけるか、検討していきたいと思う。 • 不登校児童生徒は、学校で対応を行っていると思うが、こもりびと支援とはどのように連携していくのか。 (所管部) 今回、条例案を検討するなかでは、教育部とも事前に相談をしてきた。その中で、不登校の児童生徒はいても、ひきこもってしまうこどもは少数であるということが分かった。また、先生という立場ではなく、こもりびとコーディネーターが接することの方が、不登校当事者にとって受け入れやすいということもあるという話があった。今後は、教育部とも連携を密にして、当事者に一番寄り添えるのは誰なのかということを考えながら対応していきたいと考えている。 • 今後の取り組みとして、NPO や民間企業との連携を図っていくことも考えているようだが、現在、市内でこもりびとに関わって活動している団体はあるのか。 (所管部) 現状、市内には、こもりびとに関わって活動している NPO や民間企業はない。昨年、大和市で講演をしていただいた池上先生は、国内でも有数の有識者の方で、いまでも連絡を密に取らせていただいている。池上先生は、特定非営利活動法人全国ひきこもり家族会連合会の役員を務めているので、この連合会からアドバイスをいただきながら、今後の取り組みを進めていければと考えている。 • ひきこもりというのは、生きるための選択というケースがある一方、自殺につながるケースにもなりうると思う。大和市では自殺対策にも力を入れて取り組んでいるが、こもりびと支援との連携についてどのように考えているか。 (所管部) 自殺対策も、こもりびと支援と同じ部署で対応している。このため、こもりびと相談のなかで、深刻な状況があれば、まずは自殺対策としての対応をとっていく。その後、課題が解決すれば、こもりびと支援で対応していくかたちで、密に連携をしていく。
会議結果	案のとおり、進めていく。